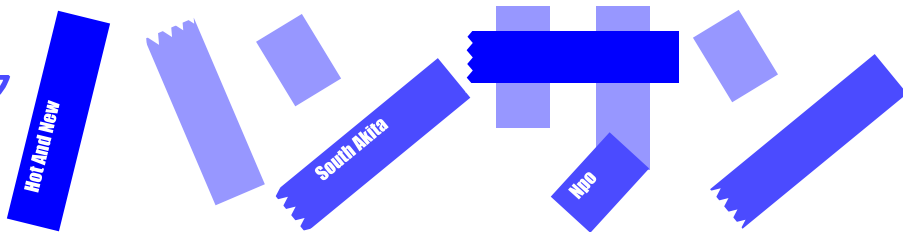


県南のNPOを情報でつなく、ささえる。

秋田県ボランティア NPO 活動ニュース

「県南版」



P2~7 ...特集

課題が山積する今こそ、
多様な主体による「協働」を

P8秋田県より

元気なふるさとづくりに取り組む
県民活動を応援します

今月の表紙

「伝統行事に関わる子どもたち」

2月15、16日、横手市では小正月行事の「かまくら」が行われました。横手南小学校敷地内に設置されたかまくらでは、横手おやこ劇場の呼びかけで集まった子どもたちがおもてなしをしています。

これに先立ち、同月11日には同団体による「わくわくクッキング♪かまくらの豆もちを作ろう」が行われ、かまくらの中でおもてなしをする子どもとその保護者約40名が参加。まつり当日に来訪者に振舞う豆餅を調理し、楽しく交流しました。子どもたちが大人になったとき、この経験が大きな力となることでしょう。(奥ちひろ)

3

March 2020

Vol.150



課題が山積する今こそ、多様な主体による「協働」を ～コーディネーターの役割を探る～

地域では、様々なセクターがそれぞれの持ち場で活躍しています。ところが、人口減少により社会資源は減少しており、一方で課題は複雑化・多様化しています。様々な課題に対応するために今ある社会資源をより効果的に活用していく目線が求められるようになってきていると言えるでしょう。

その一つの手法として、多様な主体による協働があります。協働事業が生まれている現場を見てみると、取り組みの主体の中に「つなぎ役」となっているキーマンがいます。今月号では、県南各地で活躍中の4名のキーマンから、地域における「つなぎ役」の役割について聞きたいと思います。(聞き手：八嶋英樹、編集：奥ちひろ)

活動内容を教えてください

津村 横手青年会議所（以下、横手JC）は2018年に、よこラボプロジェクト実行委員会（以下、よこラボ）を立ち上げました。団体名は「横」のつながりを意識しよう、「協働」しよう、「研究室」のようにみんなで考え話し合っていていこうという意味で、JCだけでなく市内のNPOや社会福祉協議会、市など多様な立場の方が集まって地域に必要な活動を企画し、実行する場です。立ち上げにあたり、秋田県南NPOセンター（以下、NPOセンター）の支援を受けました。2年目に行った「つむ♪らんど 金沢あそびがっこう」は、各家庭で不要になったおもちゃを一同に集めて遊ぶイベントで、終了後には必要としている個人や保育・学童施設に「紡」ぎました。2日間で約470名が集まり、おもちゃは16施設に寄贈しました。当日に子どもたちの見守りをしてくれる中高生、昔の遊びを教えてくれる高齢者を募集し、世代間交流も生まれました。よこラボの設立はゼロからでしたので、市内の様々な団体に直接出向いて趣旨を説明し、参加をお願いするところから始

まりました。初めてでしたのですべてが手探りで、NPOセンターに都度相談しながら進めてきました。

菅 先月、神奈川県横浜市の大学でまちづくりを学んでいる本県出身の学生さんの想いを形にするお手伝いをしました。「自分の得意なスパイスカレー作りをツールに、地域に住む方のまちへの想いを聞く場を作りたい」と話していたので、実現させようと提案したんです。彼女とは湯沢市の事業^{*1}で知り合ったのですが、市の事業担当者や首都圏の事業実施団体も私的に協力してくれ、知恵を出し合って準備しました。市の方は実家が農家で食材の一部を提供してくれ、実施団体は首都圏で取り組みの周知をしてくれました。自分は協力店舗探しや地元での周知を担い、2月22日からの3日間、湯沢市の飲食店で「Rana no Curry」を開店することができました。地域には、自分が主体とならなくてもお金やスキル等、いろいろな形でサポートして

^{*1} 湯沢市「地方と都市の共創型リビングラボプロジェクト」

湯沢市と横浜市が抱える地域課題を共有し、双方の地域課題を双方の地域住民や企業等によって解決しあう仕組みを構築するとともに、参加した都市部の住民の湯沢市への関心を醸成することをねらいとしたもの。令和2年度総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業に採択された。



よこラボプロジェクト「つむ♪らんど 金沢あそびがっこう」

地域に活気とにぎわいを取り戻すとともに、遊びを通して世代間交流を促し郷土愛を醸成することをねらいに、2019年9月28、29日に金沢孔城館（旧金沢小学校）で開催された。2020年も開催予定。



Rana no Curry

県内出身で首都圏に住む大学生の想いから生まれた3日間限定のカレーレストラン。住民の想いや地域の魅力を共有することで、まちを楽しむヒントを発見できるのではないかとこの想いで開催された。



後藤久司

Hisashi Goto

(社福)湯沢市社会福祉協議会
地域福祉課総合相談室 主査

1977年湯沢市生まれ。大学卒業後、湯沢市社会福祉協議会へ入職し、地域福祉に関する職務を主に担当する。2014年に湯沢市より生活困窮者自立相談支援事業を受託後は、生活に課題を抱える相談者の支援を行っている。



松塚智宏

Tomohiro Matsuzuka

まるこがわ
05111 世話人

1980年大仙市生まれ。やまと建築事務所代表取締役社長。秋田銀行の事業創造ワークショップへの参加をきっかけに、2019年、地域での起業を応援し大曲の魅力化を図るプラットホーム、05111の結成を提案、立ち上げに至る。(特活)日本ホームインスペクターズ協会東北支部長、(特活)大仙親と子の総合支援センター副代表ほか、様々な活動に尽力している。



津村侑弥

Yuya Tsumura

(一社)横手青年会議所
理事長

1983年、横手市生まれ。明照保育園園長、九品寺住職。2011年に横手青年会議所に入会。2019年、まちづくり委員会委員長として「よこらプロジェクト実行委員会」を設立した。2020年理事長。



菅善徳

Yoshinori Suga

(特活)こまちハート・オブ・ゴールド クラブマネジャー／湯沢市まちづくりコーディネーター

1977年湯沢市生まれ。サービス業を経て、2016年より総合型地域スポーツクラブを運営するこまちハート・オブ・ゴールドに入会する。湯沢市より雄勝スポーツセンター(旧秋ノ宮小学校)の指定管理を受諾するほか、企業の健康経営の応援やサマースクール「ゆざわ未来学校」の企画運営等を行う。2018年、養成講座を経て湯沢市まちづくりコーディネーターに就任。

くれる人がいます。そういう人とマッチングすることで、止まっていたことが動き出すこともありますよね。コーディネーターの役割として大事なところだと思います。

後藤 私は、生活保護に至る前の生活困窮者を支援しています(湯沢市からの委託事業)。具体的には、ひきこもりや借金問題、DV等の個別ケースに対応しています。そんな中で2018年に、横手市の株式会社マルシメ(スーパーモールラッキー)からお声がけ頂き、同社がCSRの一環で行っている意見交換会「県南リビングラボ」に参加しました。遠藤社長から「地元が元気にならないと企業も元気にならない」という話があり、みんなで地域課題やその解決策について話し合う中で、社協が悩んでいたひきこもりの方の実情についてお話ししました。これを取り上げて頂き、2019

年よりマルシメとの共催で「ラッキークエスト」という当事者を対象とした社会参加型訓練を展開しています。「つなぎ役」として動いたこととしては、企画段階から協力してくれそうな支援機関を探し、交渉したことです。その結果、横手社協と羽後社協に参画して頂くことができ、マルシメと湯沢社協のみで行うよりも効果的に取り組むことができています。社協は当事者を把握して支援していますし、湯沢社協では「りらとこ」という居場所サロンを開いていますので、当事者の方に「ラッキークエスト」をご紹介します、参加して頂けるように調整しています。マルシメのCSRの推進は、NPOセンターにも在籍するコーディネーターが担っており、社内と地域のつなぎ役としての役割を果たしてくれていることで実現に至っています。



ラッキークエスト

社会的生活に困難を抱える方が、自分らしく豊かな生活を送ることができるよう、交流を通じて自立生活に必要な経験を提供するプログラム。横手市のスーパーモールラッキーを会場に実施している。



05111

起業や新規事業の立ち上げを目指す方のプラットホームで、出店エリアを大仙市大曲中心部を流れる丸子川の徒歩圏内に集中させ、まちを楽しくすることをイメージしている。

松塚 まるこがわ 05111は、秋田銀行が大仙市で開催した事業創造ワークショップの参加者が主体となって、2019年に立ち上げたグループです。メンバーの約半分は起業したい人や新規事業を行いたい人ですが、それを応援したい人も参加しています。私たちは、市内を流れるまるこがわ丸子川がかつての流通の要所で、ここを起点にまちが発展したことや、この近隣エリアには現在空き家が多いことに目を付け、これを資源として活用しようと考えました。メンバーそれぞれが単独で起業するのではなく、丸子川から徒歩圏内に集中させて出店することで、相互に協力し合い、エリアとしてまちを楽しくすることをイメージしています。月1回の例会では、メンバー間で事業計画についてプレゼンテーションを行い、相互にフィードバックして応援合っています。私の役割としては、銀行のワークショップ終了後も参加者が起業に向かえるようにと、この場を設定して応援してきました。また、メンバーの多くは市外出身で、地元との縁が薄い方です。私は大曲出身ですし、丸子川沿いで会社を経営しているので、地域とのつながりがあります。ですので、例えばメンバーが事業を行う際に空き家を使いたいとなれば町内会や市など関係各所につないでいます。

協働事業だからこそ得られた成果はありましたか

菅 「Rana no Curry」は、地域の方とまちづくりについて意見交換することが趣旨でしたので、人が集まりやすい湯沢駅周辺で開催しました。市の職員や市の事業の実施団体が他県で行われている軒先ビジネス^{*2}の事例を調べてくれ、参考にしながら安全衛生面でのリスク管理や駅前店舗との交渉などを行い、実現にたどり着きました。自団体だけでは適切な場所も提供できませんでしたし、実現までにもっと時間がかかったと思います。協力店舗からは「メディアに取り上げられてお店を知ってもらえたと、新しいお客様と出会えた。こんな店舗の使い方があるんだと気づいた」という感想も頂くことができました。

後藤 私たちも、開始1年目の取り組みながら講演や事例紹介の依頼を複数頂き、福祉関係者以外の方に関心を持ってもらえる機会が増えました。企業がこういうことに取り組むことは全国的にもあまり事例がなく、県南地区でも珍しかったことが大きいと思います。社協だけではこうした

動きにはなりづらいと思います。参加者にとっても、今までの相談支援だけでは得られない変化がありました。ラッキークエストで経験を積むことで、参加者が外出時の身だしなみを気にするようになるなど、自らを振り返って気づくことにつながったりしています。こうした気づきの変化となり、就職活動を始めたり仕事に就いた人も少なくありません。支援者にとっても、1対1の相談対応や限られたグループ活動だけでは分らなかった一面に気づくことができ、その後の支援に活かせるようになりました。

津村 今までの横手JCの主な事業は、会員のみで企画し、決まった段階で地域の皆さんに当日のボランティアなどを要請するという関わり方をしてきましたので、どうしても「共感をしてもらう」ということが薄かったと感じています。今回は、JCが参加団体と同じテーブルに着いてプラットフォームを設けるところから、一緒に地域課題やビジョンを話し合い、事業を練るプロセスを共にしましたので、共有できたことが多かったです。結果として、主体的に動いてくださる方も多かったように思います。JCとしてもこれまで関わりのなかった団体と知り合うことができましたし、活動分野の多様性によって実施事業に不足している部分を、参加団体のネットワークを通じて詳しい方が補ってくださる等、輪が広がっていったことも成果だと思います。また、企業経営者となつなりたいNPOがあったり、NPOと関わりたいと思いつながら不安を持つ企業があったりもしましたので、このつながりをきっかけに、今後の活動や事業にも結び付く可能性があると考えています。「一緒にやろう」という声が参加者間で自然派生的に生まれたことも、多様な団体が集うからこそだと思います。事業そのものの成果だけでなく、事業が行う過程で生まれることがたくさんあったように思います。

松塚 複数の組織で取り組むからこそその広がりがありますよね。05111の場合は、大仙市が移住希望者をご紹介くださるようになりました。移住となると必ず仕事の問題が出てきますので、「05111に行って相談してみたら」と市が勧めてくれてメンバーが増えています。05111に参加するうちに起業の意志が固まったメンバーには、銀行に相談に行くよう勧めます。銀行主催のワークショップから始まったためにパイプができており、05111の中で事業計画を考えた上で相談に行けるのでブラッシュアップが早いという利点があります。銀行はお金だけでなく物件も紹介してくださるので、そういうところも具体的に進みやすくなっていると思います。こうした循環は05111というグループ単独では生むことができないもので、市や銀行との協力関係があるからこそだと思います。



*2 軒先ビジネス 空きスペースを貸したい方と、使いたい方をつなぎ、有効活用すること。シェアリングエコノミーの1つ。



つむよりんど 金沢あそびがっこう



05111



ラッキークエスト



Rana no Curry

協働するからこそその課題や、「つなぎ役」として動くことの難しさはありましたか

津村 多様な参加者とワークショップ形式でゼロから事業を構築する経験自体が初めてでしたので、本当に手探り。例えるならミステリーツアーでした。参加者との合意を積み上げていく段階では、100%の納得を得ることが難しく、「決定した事業には関心がないから離脱する」という方も。参加団体が特定の活動分野を持ち、地域に対して熱い思いを持っているからこそではありましたが、一方の意見だけを聞いていると収集がつかなくなってしまいます。こうした場合にどのように合理性を担保し、ご納得いただけるように伝えるかも、NPOセンターから教わりました。総意を得ながら1つ1つ進めることを2年やってきたら、「この回の話し合いはエネルギーがいる回だな」ということが分かるようになってきました。

後藤 私はマルシメのみなさんが親切でしたのでそこまで難しさはありませんでしたが、マルシメの従業員全員が事業を理解して、そこに向かっていくかというところがあるのかなと感じました。一つの組織でさえも一丸となるのが難しいので、多様な価値観を持つ組織同士が協働するとなると当然、課題が生まれてきますよね。実は来年度、子どもたちに福祉への関心を持ってもらうための事業を県雄勝地域振興局が計画しており、その題材がラッ

ッキークエストになる予定です。そうなると関係機関が県や学校にも広がります。打ち合わせの中でそれぞれの組織の時間的制約や事情が垣間見えたり、大人側も「福祉」への認識が様々な中でゴールを決める必要があったりしており、難しさを感じています。

松塚 チームが一丸となれるかどうかポイントですよ。05111でもメンバーの意識づけには常に気をつけています。想いを維持して自走できる人は良いのですが、そうでなければネガティブな話を始めたりグループを離れる人が出てきたりするのでフォローが必要ですよ。05111では集まったら毎回、グループの目的を確認して共有することから始めています。そのことが大変というわけではありませんが、自分の中で毎回確認しようという意識が必要だし、根気のいることではあります。でも、活動時間が限られていたとしても必ずやるべきことですね。それをしないと、グループは崩れていくのかなと思います。

後藤 行政も社協も、数字が好きですよ。「今回の参加者は何人」で喜んだり、落ち込んだり。でも、本来目指している目的はそこではないということがよくある気がします。

松塚 組織として事業の目的をしっかりと定めることのほかに、多様な組織で取り組む場合には、関わっている組織に合わせた「合言葉」を用意することも効果的です。軸となっているのは最初に定めた事業目的ですが、そのまま

伝えても他の組織に響くとは限りません。相手の立場に立ったときにこの事業にはどういう意義があるのか考え、分かりやすい「合言葉」として伝えることで、相手が参加しやすくなったりもします。

津村 他の大変さといえば、参加団体への日頃の働きかけでした。お仕事や自分の団体を持っている方が多かったので、参加者の関与のレベルが人によってまちまちだったからです。率先してやってくれるメンバーがいつも同じ人だと、疲弊していきますよね。いかに役割を分散するかも大切だと思いました。また、様々な世代の方を参集したために連絡手段が複数になってしまい、事務手続きが複雑化しました。

松塚 先日、僕は世話人をやめました。一番大変だったのは、月1回の例会の段取りです。回のゴールや議題を決めて、会場を確保して案内を出して、出欠を取る作業はなかなか大変ですよ。当日は進行をして記録を残す必要もあります。世話人を固定すると、最初は主体的だったメンバーもその人に頼るようになってしまうため、世話人の役割を参加者間で順番に行うことに決めました。こういった役割分担ができれば、コーディネーターはコーディネーションに集中できます。役割が偏らないようにすることも大事だなと思いました。とはいえ、一般的には自分自身にやりたいことがあるから活動に参加するわけで、組織の維持やメンバー間の調和を取ろうという世話人やコーディネーターの視点で参加しているわけではないですよ。そんな中で、いつまで自分が担うのかという悩みがあります。

菅 自分としては、コーディネーターがいるからこそ生まれている成果にもっと着目してもらいたいです。コーディネーターは誰かのやりたいことを応援し、困り事の解決を後押しする、地域にとって重要な役割ですよ。しかし、そこで得られる収益があるわけではなく、持ち出しになります。「つなぐ」ことで相談者からお金をもらうことは難しいケースがほとんどです。行政には、コーディネーターが地域で果たしている役割に意義を感じてもらい、予算をつけて頂きたいです。そうすると、もっと動けるのになど悔しい部分があります。というのも、湯沢市のまちづくりコーディネーターを拝命したことで頼られることが増えてきたのですが、今以上にその時間が増えると本業が回らなくなってしまうのです。そのためにも、まずはコーディネーターとしての実績を作って予算をつけてもらえるように提言していきたいと考えています。

多様な主体が協働して取り組むことのメリットと、コツはありますか。

津村 多様性こそがメリットになると思います。いろいろな意見から生まれる新しいアイデアに発展していくためです。参加者と目的を共有し、ぶれないようにそこに着地することがコツです。一番大事なのは、熱意を伝えることです。自分も汗をかいて伝えないと、なかなか人を動かすのは難しいと感じました。

菅 同じ時間を過ごし、想いの共有することによって仲間意識ができるという良さもあります。注意したいことは、役割分担を明確にしておくことです。その際、自分の立ち位置も明確にし、誤解のないようにはっきり伝えることも大事です。そこが不明確になると、トラブルが起きがちです。

後藤 実は、社協は企業とのタイアップが苦手です。というのは、相手のことを知らないからです。保守的な組織だと、関わりやすいところとくつつきやすいですよ。でも、地域課題の解決を目指すのであれば、住民にとって一番身近な生活の場である企業との協働は欠かせないような気がします。今回、私たちもマルシメと協働させて頂きましたが、課題解決の手法を考えるにあたって福祉の領域以外にも視野を広げる機会になりました。初めての試みは失敗もありますが成長にもつながるので、それを信じてやり抜くことが大事だと思います。特に福祉のように、活動の成果を分かりやすく示すことが難しい分野の活動には、異なる分野の方と連携することで、それを起点に広がっていくというメリットもあると思います。湯沢社協としても、湯沢市内で協働できる企業を開拓していきたいです。

松塚 NPOだけでなく中小企業もそうですが、今、必要な資源を自分のところだけですべて賄うことは難しくなっています。何をにしても協働を前提にしたほうが良いと感じます。そのほうが組織も活性化するし、事業に発展性も見えてきます。他と組むメリットのほうが大きいのではないのでしょうか。成功のコツは、関係機関やメンバーにとっての協働のメリットや幸せな状態について、あらかじめ想いを聞き、それをつなぐことだと思います。コーディネーターとしての覚悟を持つことは必須です。半端にやっても人は着いてこないの、最後は根気や熱意が必要だと思います。

—ありがとうございました。

NPOセンターへ一言！



社協のボランティアセンターとの関係性を強化して頂きたいです！



今後も個人や団体のご紹介と活動へのご助言をお願いします！

定期的に対話したいです。引き続き、情報提供もお願い致します！



秋田には若者の力が必要。今後も若者の支援をお願いします！



取材先の団体・企業の皆さま、 高校生ライターの皆さんから ご感想を頂きました

令和元年度も、いよいよ年度末となりました。今年度、情報紙『ハンサン』の編集にご協力くださった皆さんの感想を紹介しながら、1年間の『ハンサン』を振り返ってみたいと思います。
(八嶋英樹、奥ちひろ)

にしせん未来塾 金子直さん

高校生が勇気を持って取材してくれ、私の下手な会話からも要点を分かりやすく記事としてまとめてくれて感激しました。掲載号は、メンバーとの設立趣旨の確認書や、計画にブレがないか確認する自分自身の説明書として役立っています。



—6月号活動ウォッチング
『人』が好き、『楽しい』が好き、『にしせん』が好き

NPO法人みさぽーと 佐々木紀明さん

自身も改めて当法人の理念や活動を再確認できましたし、一年目の職員に共有できる良い機会となりました。

—2月号活動ウォッチング
「活動のきっかけを提供して個人の生きがいも、まちの豊かさも創る」



羽場・市野・皿小屋地域生活

サポートシステム 高橋秀一さん

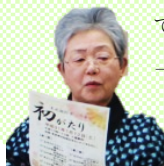
『ハンサン』からはNPOセンターや他の共助組織等の活動状況を逐次知ることができ、ありがたいです。自分たちの組織と比較して考えさせられることも多々あります。



—5月号表紙
「共助活動の意見交換」

東成瀬昔っこの会 佐々木慶子さん

多くの方に、私たちのことを覚えていただけたらと思っています。高校生の記事は大変よく書いていましたし、後日担当の先生から「ライター」を頂きました。嬉しかった！村内外で活動していますので、応援してください。



—7月号活動ウォッチング
「先人がつくり、現代に語る、未来の心」

株式会社小野建設 小野人平さん

取材を通じてSDGsを知ることができましたし、自社で掲げるエネルギー事業を見直すことができました。高校生が地元のことをよく考えていることに驚き、つい嬉しくなって話し込んでしまいました。高校生ライターの取り組みはとても良いと思います。掲載号は、自社のPRに活用させていただきます。



—12月号活動ウォッチング
「心を込めた経営で、豊かな地域を作る」

狙半内共助運営体 奥山良治さん

各地の取り組みや、いろいろな知識の紹介が参考になり、助かっています。



—2月号表紙
「さるはんない三平カー」

大曲農業高校

浅利華穂さん

初体験で不安だけでしたが、やってみると楽しかったです。取材と編集を1人で担当した際は大変でしたが、1人でやり遂げたからこそコミュニケーション能力と文章力が上がった気がします。取材、編集をサポート頂き、ありがとうございました。



—6、10月号活動ウォッチングを担当

横手高校定時制 青雲館 佐藤茜里さん

取材回数を重ねるにつれて過度に緊張しなくなり、質問したいことを聞けるようになりました。取材先の方が温かく迎え入れてくれたことがとても嬉しかったです。



—7、11月号活動ウォッチングを担当

羽後高校 藤山英璃奈さん

小野建設の社長さんが様々なお話をしてくださいました。全てを聞き取る難しさを感じながらも、大切だと思ったところをメモして記事作成に役立てました。社会人になったら、もっと工夫してメモを取るようにしたいです。



—12月号活動ウォッチングを担当

羽後高校 麻生駿一郎さん

取材で伺ったことをどういう言葉にしたら読者に伝わるかを、とても考えました。新聞記事等を何気なく見ているけれど、文字にして伝えることは難しかったです。対話では雰囲気や伝わることや分かったようなつもりになることもありますが、文章では明確にしないと伝わらないことが分かりました。



—12月号活動ウォッチングを担当

横手高校定時制 青雲館 田高良樹さん

数時間の取材の中で、自分の心が何度も揺れました。それほど想いを代弁し、文章にまとめる作業は単純なものではありませんでしたが、一つ一つの言葉の意味を考え、まとめた文章が『ハンサン』に載ると達成感が得られました。自分の生活エリアにいる人としかつながりのない私にとって、高校生ライターの活動はとても新鮮でした。取材先の地域、団体ごとに魅力が違い、魅了されました。特に「東成瀬昔っこの会」の影響で、自分のまちの方言に興味を持ちました。これからの進路を考える上で、非常に役立つ経験になりました。



—7、8、11月号活動ウォッチングを担当

元気なふるさとづくりに取り組む県民活動を応援します ～令和元年度「元気なふるさとづくり顕彰事業」表彰～

秋田県では、自主的・主体的な地域活動に取り組む市民を対象に、特に優れた個人・団体を表彰する「元気なふるさとづくり顕彰事業」を平成19年度から行っています。2月に表彰式が開催されましたので、ご紹介します。

(表彰者・団体／代表者／活動内容)

■ 仙北地域の表彰者・団体



◆大曲農業高校太田分校生徒会／浅利蓮さん／「地域とともに歩む太田分校」をスローガンに、太田分校レストランなど、草の根的な地域交流活動に取り組んでいます。

◆地産地消を進める かくのだて「根っこ会」／小野マサさん／消費者と生産者の情報交換や研修などを行ないながら、地元消費者への安全な農作物の供給、農家の経営向上、地域の活性化に力を入れています。

◆美郷町地域づくりマスター会／澁谷和之さん／町びと劇団「ゼンマイ座」を企画・運営し、演劇を通して地域の絆を深め、地域の担い手発掘・育成に努めています。

■ 平鹿地域の表彰者・団体

◆横手園芸療法の会「庭じかん」／浅利政子さん／障がい者等が作成した花の寄せ植えプランターを高齢者宅等へ配布し、声かけや見守りを行っています。また、地域住民や買い物利用者等の交流の場づくりに貢献しています。

◆狙半内共助運営体／奥山良治さん／地域住民主体で高齢者宅等の雪よせ・雪下ろし等を行っています。平成29年度からはミニバンによる有償旅客運送を行なっています。

◆^{ちんじゆ}椿寿の会／高橋英身さん／スコップを三味線に見立てた「スコップ三味線」をイベントや施設などで披露、高齢者の社会参加や元気な地域づくりに貢献しています。



■ 雄勝地域の表彰者・団体



◆読みかたりグループ「つくしんぼ」／岡光さん／東成瀬公民館図書室を拠点に、心豊かな村づくりを目指して、地域住民の読書への関心を高める活動をしています。

◆ゆざわ井戸端会議／安達英二さん／古文書や古地図をもとに絵図にした「湯沢の小路」の発行など、地域資源を活用し地域の活性化に資する事業に取り組んでいます。

受賞された皆さん、おめでとうございます。それぞれの活動が更なる波及効果を生み、市民活動がさらに広がっていくことに期待いたします。(八嶋英樹)

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2020年3月10日発行
3月号 VOL.150

発行：秋田県あきた未来創造部地域づくり推進課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPO センター (南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00～18:00
土・日 9:00～17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29～1/3)

〒013-0046 横手市神明1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/



編集スタッフの
つぶやき

VOL.10

市民活動サポートセンター長
高城 憲子

今年度も『ハンサン』をご愛読いただき、ありがとうございました。新型コロナウイルスの広がりですべてが騒然としている中、各地で子ども食堂や居場所の閉鎖など市民活動にも様々な影響が出始めております。反面、休校中の子どもとその家族を支えるための活動や助成金の設置も見られます。

こんな時期こそ、市民一人ひとりの自律と公益的な皆さんの活動が市民社会の支えになっていきます。自分たちができることを見極めながら、これからは地域の中で元気に活動していきましょう。